

ニュース

# 装い新たに、空の玄関口

## 生まれ変わった空港ビル

総事業費25億円投じ、旅客サービス、耐震・環境性能をアップ



▲建物に巨大な屋根を乗せた国内線ターミナルビル。シルバーグレーの直線的な大屋根は、熊本城の瓦屋根や天守閣を囲む櫓や塀のイメージを狙うと同時に、伝統的な日本建築の庇（ひさし）構造で、熱を遮り、光を採り入れる機能を持つ。



### 熊本空港国内線ターミナルビル

壁面や天井部分にふんだんに使われた県産材を中心とした木材が、ほのかに木の香りを漂わせている



▶下りエスカレーターの正面には、雲海に浮かぶ阿蘇の山々を陶板で表現したレリーフ「雲上の岳神」（染色家の高津明美さんの原画、監修）が設置されている



▶今回の増改築工事で道路側へ3m拡張された1階部分。バリアフリー化でシースルータイプのエレベーター2基、下りエスカレーター2基を増設した

熊本空港ビルディング(株)（安田宏正社長）が、総事業費約25億円をかけて進めていた国内線ターミナルビルの増改築工事がこのほど完成した。  
今回のリニューアルは、ビルの奥行きを前面道路側へ3m拡張してチケットロビーにゆとりを持たせ、ビル前の歩道幅も従来の4mから7.5mへ拡張、大型の庇（ひさし）を設置し開放感と使いやすさを向上させた。  
バリアフリー化では、視認性の高いシースルータイプのエレベーター2基、下りエスカレーター2基を増設したほか、トイレの改修、案内サインの改良などを実施。環境対応では、太陽光発電システムやLED照明などを導入した。県産材を壁面や天井などにふんだんに使用し、シルバーグレーの直線的な大屋根が熊本城の天守閣を囲む櫓や塀をイメージさせている。

## もう一本の“九州縦軸”、芦北町から南進着々

南九州西回り自動車道 湯浦川橋で上部工工事が本格化



▶湯浦川橋の橋脚は7本。地上から路面までの高さは18mとなる。13年度中には桁が架かる予定だ。津奈木側から見る



◀同橋の桁工事は「張り出し架設工法」と呼ばれ、4m×5mずつコンクリートを打設し桁を延ばしていく工法が採用されている

九州縦貫自動車道と並ぶもう一本の「九州縦軸」、高規格道路の南九州西回り自動車道（八代市・鹿児島市間約140km）。県内延長約50kmのうち、同ICから津奈木IC（津奈木町千代）間約7.7kmは15年度供用に向け、工事は着実に南進している。  
工事が本格化しているのは湯浦川と国道3号をまたぐ湯浦川橋（芦北町湯浦、延長413m）や津奈木IC（津奈木町千代）などで、湯浦トンネル（同1166m）でも本体工事を前にした土工工事が始まっている。同区間のトンネルは「津奈木」「湯浦」のほか、12年度以降の着工を予定している「女島」（1085m）がある。  
7本の橋脚からなる湯浦川橋は、昨年から上部工工事を開始、現在工事が進行中の桁（けた）は14年3月までに架設される予定だ。



八代側から見る湯浦川橋。写真下を通る国道3号と肥薩おれんじ鉄道をまたぐ